

食材「日本離れ」固定化の恐れ

処理水放出 中国や香港反発



香港の親中派団体が22日、日本総領事館前で福島第一原子力発電所の処理水の海洋放出に反対する抗議活動を行った＝AFP時事

東京電力福島第一原発の処理水の海洋放出が24日にも始まる。放出に強く反発してきた中国からは、ますます日本政府を批判する声が上がった。一方で、処理水を放出したとしても、廃炉の完了は見通せないままだ。

▼1面参照

香港政府トップの李家超（ジョン・リー）行政長官は22日、10都県の水産物の禁輸を、中国本土の人が見るSNS「微博」の公式アカウントでも公表した。「食品の安全や環境汚染を顧みず、自身の問題を他人に押しつける無責任なもので、強く反対する」

この言葉遣いは、この数時間後の記者会見で、日本を一方的に糾弾した中国外務省の汪文斌副報道局長と極めて似た文言だった。昨年5月、親中派が99・9%を占める選挙委員から選出された李氏は、習近平国家主席の信頼が厚いとされる。香港政府は、処理水問題でも中国政府と相談して決めるとの立場を早くから表明してきた。

香港が禁輸にする10都県には、埼玉や長野など海のない内陸県も含まれる。中国政府は2011年の原発事故以降、現在も新潟産の米を除き、10都県産の水産物を含む食品を禁輸しており、中国の基準に沿った判断なのは明らかだ。

香港で食品輸入会社を経営する日本人男性は、疑問を感じるという。「海洋放水なのに、陸上養殖もダメなのか」

中国では国営メディアを中心に、処理水を「核汚染水」と表現し、海洋放出の危険性を繰り返し報じてきた。そのため、放出の決定は中国のネット上でも話題を集め、日本産品の禁輸を求める声や「安全なら、なぜ日本の領土内で処理しないのか」といった書き込みが目立っている。

上海市内の会社員男性（36）は、今後日本の水産物は食べないつもりだという。「科学的に安全と言われても心配。すぐに問題はおきなくても、時間がたつてからどうなるか誰にもわからないから」日本食のファンを自任する北京市内の元公務員

の60代女性は、「自分の周りでも、放出前から『日本の食材は避けましょう』と言う人たちがいる。非科学的だが、何を信じていいのか分からない不安がある」。

日本の水産物を扱う中国国内の料理店は、鮮魚の輸入が止まってから、中国産などへの切り替えに追われた。放出が始まれば食材の「日本離れ」が固定化する恐れもある。

中国税関総署が18日発表した統計によると、7月に日本から輸入した水産物の総額は、前月比33・7%減の2億3451万元（約46億円）だった。

韓国でも、最大野党の議員らは22日、ソウルの日本大使館前で抗議の声を上げた。「汚染水テロ」と呼ぶ議員らも出て、撤回決議案を大使館に持ち込もうとし、警察官ともみ合いになった。

ただ韓国では来年春季の総選挙を控え、野党が処理水問題を政治問題化し尹錫悦政権を攻撃する傾向が強まっている。韓国政府は22日、「日本側が当初の計画通りに放出する点を確認し、計画上の科学的、技術的問題はないと判断した」と理解を示した。野党はこうした姿勢を、日本寄りだと批判している。

（北京＝林暎、台北＝石田耕一郎、上海＝井上亮）